様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：３４３１４
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2015
課題番号：２６５６０１５１

研究課題名（和文）都市施設における博物館的機能の展開による博物館学の拡張に関する研究

研究課題名（英文）A study on Museum-like Functions in Urban Facilities and Expansion of Museology

研究代表者
堀江　典子（HORIE, Noriko）

佛教大学・社会学部・准教授

研究者番号：７０４５５４８４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,100,000円

研究成果の概要（和文）：　都市施設の概念と存在意義を示した上で、都市施設における博物館的機能の現状と意義を整理し、可能性と課題を検討した。
　都市施設には本来の機能発揮という存在意義と同時に、地域の共有財産としてのより広い機能に及ぶ存在意義があり、博物館的機能（収集・保存、調査・研究、展示・教育、楽しみ）を担うことができ、地域の記憶と記録を継承し地域の担い手の裾野を広げていく意義、防災教育や環境教育における意義、市民とのコミュニケーションの観点からの意義がある。一方、縦割りで時として競合的になされている取り組みを横断的に位置付けていく必要、人材・体制の必要といった課題に対し博物館学や学芸員による貢献の可能性がある。

研究成果の概要（英文）：In this study, after the ambiguity of urban facilities and the meaning of their existence was examined, the current state and the significance were grasped. Furthermore, possibilities and problems were considered.
Consequently, it is shown that urban facilities have not only meanings of their existence from the original purpose but also meanings extending wider functions, and that urban facilities can perform museum-like functions, which are collection, preservation, investigation, study, exhibition, education and enjoying. Those museum-like functions are effective in succeeding regional memories and developing of human resources, in education for anti-disaster and environment, and in communication to suggest citizen's understanding. Henceforth, various activities should be placed in crossing way. Museums and curators may contribute to such arrangement and to solve problems concerned with work force and systems.

研究分野：都市環境学、都市計画、博物館学、造園学

キーワード：都市施設　博物館的機能　博物館的活動　収集保存　調査研究　展示教育　インフラ　地域課題

１．研究開始当初の背景

近年、人口減少化、少子高齢化、財政難等への対応から行政サービスの合理化が進行するなか、地域の骨格となる都市施設は「選択と集中」と「多様な主体の関与」により再構築が図られつつある。

このような状況下にあって、博物館領域では博物館の使命と存在意義の主張、博学連携や地域連携、アウトリーチ活動など地域貢献、魅力向上による集客のテコ入れなど様々な取り組みと報告がなされ、一定の評価は得られているものと考えられる。

しかしながら、多機能化し博物館的機能を付加された施設・機関の出現、地域活性化等を目的とするアートイベント開催、博物館の形態や活動自体の多様化などによって、博物館と他の都市施設や領域との重複が拡大している状況に対して、博物館学が充分に対応できていないと考えられる。

研究代表者は、「「博物館学」の知の導入と連携による公園の博物館的機能展開手法の開発に関する研究」（基盤研究（C）H20-22）以降、公園と博物館との機能的重複に着目してきた。博物館と公園の機能の相違を博物館的機能（収集・保存、調査・研究、展示・教育、楽しみ）、及び公園的機能（レクリエーション、環境保全、景観形成、防災）の観点から整理し、それぞれの機能による相乗効果とコンフリクトを考慮したうえで、役割分担と連携について検討し、その上で、都市公園における博物館的機能導入は、園内資源の保全と活用による、公園としての価値及びサービスの向上を通じた社会貢献であることを提示して具体的な展開手法案を提案することを行った。

その過程で導出された課題のうち、資源の保全と利用のバランスをとる必要については、歴史的資源に焦点を当て「歴史公園における観光資源の保全と利用のための最適化モデルの開発に関する研究」（基盤研究（C）H23-25）に発展させ、歴史公園における観光資源の保全と利用の最適化について検討し、国内外における歴史公園の概念と機能、歴史公園管理運営実態調査等により現状と課題を把握・分析し、利用者予測手法等の検討、適正利用に向けての利用コントロールのあり方を示した。その中では、資源のオーバーユース（過剰利用）による資源の消耗だけでなく、アンダーユース（利用低迷）による無関心もまた資源の持続性を損なうこと、地域人材育成の必要などが明らかとなった。

これらの研究遂行過程において、公園以外のさまざまな都市施設についても担うことが可能な、あるいは既に担っている博物館的機能があることに気づき、また、博物館と他の都市施設や領域との重複が拡大している状況に対して、博物館学がどのように対応できるのかを検討する必要があると考え、本研究課題の立案に至ったものである。

２．研究の目的

本研究は都市施設と都市への博物館学の拡張を目指すものである。従来の博物館学は、収集・保存、調査・研究、展示・教育といった博物館機能を主として博物館（登録博物館・博物館相当施設・博物館類似施設等）などの枠組みの中に求めてきた。しかしながら、多機能化し博物館的機能を付加された施設・機関の出現、イベント開催、博物館の形態や活動自体の多様化などによって、博物館と他の都市施設や領域との重複が拡大していることを鑑みれば、およそ全ての都市と都市施設には、博物館機能そのものではないまでも博物館的な機能を担うことができる。

そこで、本研究では都市と都市施設が担うことが可能な博物館的機能と、その機能発揮への博物館学の対応のあり方を検討することによって、博物館以外の領域への博物館学の貢献の可能性を示すことを目的とするものである。

３．研究の方法

本研究においては以下を行うことによって、都市施設と都市全体における博物館的機能と、その機能発揮を支援する博物館のあり方を示した。研究は文献・資料調査、及びヒアリングを含む現地調査によって行った。

(1) 都市・都市施設、博物館、都市における博物館的諸活動の概念を確認し、関係性を整理する。
(2) 都市施設の現状と、それぞれにおける博物館的機能について把握し、整理する。
(3) 都市施設における博物館的機能における可能性と課題を検討する。
(4) 博物館学の都市施設及び都市全体への拡張の可能性を検討する。

４．研究成果

主な研究成果は以下のとおりである。

(1)都市施設をめぐる社会情勢

都市施設とは、都市における諸活動を支え、生活に必要な都市の骨組みを形づくる施設であり、都市計画法第 11 条第 1 項において示されている交通施設、公共空地、供給・処理施設、水路、教育文化施設、医療・社会福祉施設、市場等、住宅団地、官公庁施設、流通業務団地、津波防災拠点市街地形成施設、その他がある。

近年、人口減少化、少子高齢化、財政難等への対応から行政サービスの合理化が進行し、地域の骨格となる都市施設も見直しが求められ、「選択と集中」と「多様な主体の関与」により再構築が図られつつある。

「選択と集中」とは、各地の地方自治体が公共施設のあり方を見直し、サービス効用確保に配慮しながら、施設の複合化・多機能化による集約と統廃合による保有総量圧縮と、長寿命化を図ろうという方針である。複合化・多機能化は従来から既にさまざまな都市施設で進行しており、例えば、平時は教育の

場である学校は地域の避難所にも祭りの場ともなる地域コミュニティの拠点として機能するし、地区ごとに行政支所・図書館・体育館・集会室・保健センターなどを一つの建物に入れた公共施設も多い。都心部の都市再生特別地区においては、民間企業による再開発のなかで緑地空間提供や環境貢献、あるいは帰宅困難者対策など公共性の高い諸機能の付加を理由に容積率緩和が認められる民間建築物も増えている。鉄道の駅構内の商業施設化や保育施設併設をはじめ「施設」と「機能」の関係は施設の供給主体にかかわらず複雑化を増している。

「多様な主体の関与」は、これまでの行政への依存度が高いサービス供給ではなく、住民や NPO、企業をはじめとする民間部門が行政と役割分担しつつ主体的に担うウェイトを大きくしていくことによって財政負担を軽減しながら地域を活性化していく方向性であり、「参加」、「協働」、「連携」、「市場化」など、各地でさまざまな取り組みと模索が続いている。

このような状況下にあって、それぞれの都市施設はその機能についてあらためて問い直し、整理したうえで、施設の効果と存在意義を発信し、税金使途としての妥当性に広く理解を求め、予算確保の努力をすることが求められている。

(2)都市施設の両義性

都市建築史が専門の伊藤は、古代ローマ帝国によるインフラ整備の歴史等から、インフラには下部構造的側面とモニュメント性の両義性があり、単なる物質性に留まらないとしている。また、インフラは公的機関からのみ提供されるべきではなく、日常の営みから積み上げて地域、都市へと有機的に連関するものとして再定義し、再社会化が望まれるとしている（吉田・伊藤 2010）。

ここでインフラを都市施設と読み替えれば、都市施設は本来の機能を発揮するため造られた物的施設であると同時に、地域の共有財産としてのより広い機能に及ぶ存在意義を有するといえる。後者には権威、地域の個性や財力の可視化のほか、地域の歴史文化の保全継承、愛着の喚起、交流の場などさまざまな機能を含めることができる。

実際、都市を構成する都市施設等には博物館の建物の中に保管・展示されている資料を凌駕するほどの価値を有するものも少なくない。世界遺産として登録されている建造物にも多くの都市施設が含まれ、国内においても文化財指定等を受けている都市施設は数多い。例えば、ヴェッキオ橋（イタリア）、アイアン・ブリッジ（英国）などの世界遺産、錦帯橋（山口県岩国市）などの名勝、勝鬨橋（東京都）などの重要文化財などである。それぞれの橋自体、用と美を兼ね備えた形態、意匠をもつだけでなく、それぞれの橋には架けられるに至った必然がある。橋や道路や鉄道や上下水道や公園をはじめとする都市施設は都市・地域の発展の歴史と不可分である。道路については「歴史の道 100 選」、「日本の道 100 選」、歴史街道などが選定されているように、歴史的価値づけや文化財指定等を受けている施設も数多いが、たとえ顕著な歴史文化的価値や芸術的価値をもたなくても、地域にある必然性、地域の人々の暮らしとの関係性など、地域や人々にとって大切な意義を何かしら有しているのが都市施設なのである。

また、歴史家であり評論家でもあるルイス・マンフォードは、現代都市が直面する諸問題の解決には、人間の社会と文化の歴史に近づくことを可能にする博物館が必要であり、都市そのものが博物館の役目をするべきとしているが（Mumford1961）、ここで求められている機能は、建物としての博物館に留まるものではなく、空間的にもより開かれ、市民が日常的に接する機会のある多種多様な都市の構成要素によって発揮されるべきであろう。

(3)都市施設における博物館的機能の現状

博物館法によれば、‘「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関’と定義され（第二条）ている。また、国際博物館会議（ICOM：International Council of Museum）による定義によれば、博物館は社会とその発展に貢献する非営利で恒久的な機関で、公共に開かれており、教育・研究・楽しみの目的で人間とその環境に関する有形無形の遺産（heritage）を取得、保存、調査、伝達、展示するものとされている。

博物館の機能についてはいくつかの整理があるが、上記の大義を踏まえ、概ね「収集・保存」、「調査・研究」、「展示・教育」、及び「娯楽（楽しみ）」に整理することができ、本研究ではこれらを博物館的機能としている。このうち、「収集・保存」、「調査・研究」、「展示・教育」が特に博物館において特徴的かつ重要と考えられている。

都市施設において博物館的機能と位置付けることができる例を表１に整理した。以下、それぞれの機能に対応すると考えられる事例をあげながら、都市施設における博物館的機能の現状について述べる。

表１　都市施設における博物館的機能

博物館的機能	概　要
収集・保存	当該施設や地域、及び関連する資源についての収集・保存・保全の取り組み等

調査・研究	当該施設や地域、及び関連する資源についての確認、調査、モニタリング、研究、記録の取り組み等
展示・教育	当該施設や地域、及び関連する資源についての展示、解説、教育、継承の取り組み等
娯楽（楽しみ）	上記の機能の発揮に際し、利用者を楽しませる取り組み等

① 都市施設における収集・保存

「収集・保存」とは、当該施設や地域、及び関連する資源についての収集・保存・保全の取り組みなどであり、施設建設前の埋蔵文化財調査の出土品の保存、旧施設建設時の部分や資材の保存、関係資料の収集・保管などが含まれる。

駅の中の遺跡である阿左美遺跡は、昭和 29 年の東武桐生線阿左美駅のプラットホーム改修工事の際に発見された縄文時代の竪穴住居と敷石住居の跡であり、県の史跡に指定されている。阿左美遺跡の遺物のほとんどは笠懸野岩宿文化資料館に保管されているが、遺跡そのものは駅のホームに保存されている。また、平成 24 年に復原された国指定重要文化財の東京駅丸の内駅舎は、創建当時の意匠材料であるレンガ、天然スレート、石膏パーツなどが部分的に保存され再利用あるいは再現されている。

横浜市役所本庁舎駐車場前には、関東大震災で倒壊した二代目庁舎の基礎遺構が保存されている。これは平成 25 年の市庁舎緑化工事の際に発見されたものであり、横浜市制度黎明期の公共建築としてまた震災遺構としても貴重であることから現地保存がなされているものである。

このように、都市施設の整備や改修において、遺跡や遺構が発見された場合、地域の貴重な資源として評価し、都市施設本来の機能と折り合いを付けながら現地で保存していこうとする取り組みは、近年各地でみられるようになっている。

また、各地にある浄水場には旧施設を記念館や資料館などとして公開しているところも多い。例えば、神奈川県水道記念館は寒川浄水場に併設されており、建物本体の歴史的価値が認められ、「近代水道百選」、「日本近代土木遺産」、「土木学会推奨土木遺産」などに指定されているほか、江戸時代に使われていた水道用の木管、古いマンホールのふた、水栓、水道管の漏水個所や補修箇所の実物をはじめ、水道関係の遺構や装置などさまざまな資料を保管している。

② 都市施設における調査・研究

「調査・研究」とは、当該施設や地域、及び関連する資源についての確認、調査、モニタリング、研究、記録の取り組みなどであり、施設敷地内及び周辺の動植物や生き物調査、水質・大気等の環境調査などが含まれる。このような調査活動は市民参加やイベントとして行われたり、地元教育機関等との連携で実施されることもある。

香川県にある国営讃岐まんのう公園では、園内に自生する地域種であるオンツツジの保全のためのモニタリングなどの調査研究を香川大学など地域の研究機関と連携して行っている。

上下水道施設関係では、愛知県下水道科学館が、市民協働で下水処理水により敷地内にビオトープをつくり水質及び生物調査を実施しているほか、熊本県水の科学館も川の環境調査や生き物調査をイベントとして子どもたちと実施している。このような調査は、下水道施設による汚水浄化や自然環境回復などの効果を示すデータとなり、当該施設の役割や存在意義を示す根拠となるだけでなく、調査の参加者にとっては効果を実感できる機会にもなっていると考えられる。

③ 都市施設における展示・教育

「展示・教育」とは、当該施設や地域、及び関連する資源についての展示、解説、教育、継承の取り組みなどであり、専用の展示スペースや展示施設を併設して一般開放している施設、見学コースを設定し学校からの社会見学に対応している施設、工事中の見学会や工事の方法・進捗状況等の解説をしている施設、イベントやプログラムとして実施している施設などのほか、解説板や解説用の印刷物、ウェブ上での解説ページなど、多くの都市施設で何らかの取り組みがある。

特に小学４年生の社会科の単元で扱われる上下水道施設やごみ処理施設などの都市施設で社会見学への対応に力を入れている施設は多い。学校団体に対応した見学コースを設定し、実際に現場で業務にあたっている職員が案内している施設（例えば、岐阜市水の資料館、長野市水道資料館、長崎市水道資料館など）や、教育プログラムをつくり現場職員や広報担当職員が出前授業を行っているところ（例えば、岡山市水道記念館、神戸市水の科学博物館、鶴岡市水道資料館など）もある。

東京都築地市場など各地の市場では、見学者の受け入れや各種イベント、講習会などを実施し、卸売市場の役割や機能の普及啓発を図っている。札幌市中央卸売市場では卸売市場の機能や施設の見どころを映像で紹介するガイダンス用のスペース、水産や青果の卸売場の見学通路、卸売市場の歴史やセリの仕組みなどを開設した展示室や資料室も設けられ、団体見学時には卸のベテランが案内してくれる。

NEXCO 中日本の道路管制センターのエントランスホールには、展示とレクチャー用のスペースがあり、社会見学等に対応している。高速道路開通時の写真や資料のパネルのほ

か、ルイ 14 世の時代の道路建設の様子を描いたフランス絵画のコピーもあるなど、道路の歴史を振り返る視点もある。

東京都の勝鬨橋は、橋を開くために使用していた変電所を改修した資料館を併設しており、関東大震災の復興橋梁などの設計図面・工事写真･関係文献など貴重な資料を保管し、模型や映像で橋の仕組みを展示している。また、橋脚内部を含む見学ツアーを定期的に実施している。

神奈川県庁本庁舎も、一般の見学機会が設けられており、実際に使われている由緒ある建物、知事室、大会議室、調度品などが公開されているほか、昔の写真や図面などを並べた展示室もある。職員による説明会のほか、解説ボランティアも活動している。

このように、本来の機能発揮の場であると同時に、さまざまな都市施設が展示・教育に力を入れている。そこでは、単なる施設の PR ではなく、施設の存在意義と、その施設が市民の共有財産であり市民による支えを必要としていることへの理解を促すことが視野にあるように思われる。

一方、美術館のギャラリーのような駅もある。2015 年に北陸新幹線の開通に伴い開業した JR 金沢駅のコンコースには、石川県を代表する人間国宝８名を含む２４名の作家による伝統工芸品が多言語の解説付きではめ込まれた柱が並んでいるのをはじめ、駅舎の随所に伝統工芸品がふんだんに配されている。駅構内に地元の特産品や記念物を含む歴史文化資源等を展示している駅は多い（例えば、JR 長岡駅の縄文火炎土器の模型、JR 鹿児島駅の枡レリーフなどの展示ケースなど）。交通拠点としての駅構内を通過する不特定多数の人々を対象とした美術展示としては札幌大通地下ギャラリー500m 美術館（駅施設内の通路に設置されたギャラリーとして日本最長）もある。また、パリのオルセー美術館のように旧駅舎を美術館に改修した事例の他、東京ステーションギャラリー、美術館「えき」KYOTO（JR 京都駅ビル内）など駅施設内にある有料美術館、ちいさな駅美術館 Ponte del Sogno（JR 紀勢本線藤並駅 2 階、定期的に絵本の原画を展示。無料）などもあり、駅と美術展示とは親和性があるように思われる。

④　都市施設における娯楽（楽しみ）

「娯楽（楽しみ）」とは、上記の機能の発揮に際し、利用者を楽しませることを意識した取り組みなどであり、楽しみの機会を提供するイベントや、子どもたちの興味を引くようなキャラクターやイラストをデザインしたり、ゲーム的な要素を入れたりすることなども含まれる。

水道資料館などでは６月の水道週間や夏休みなどを中心にイベントを開催しており、例えば、高松市水道資料館ではコンサートや花火などを市や水道関係の組合や地域と行っており、岡山市水道記念館では通水記念日、夏休みの４日間、クリスマスにイベントを実施している。また、子どもたちが水遊びをしたり、遊び感覚で水道の仕組みが理解できるような工夫は神奈川県水道記念館、松山市水道資料館などをはじめ多くの施設に見られ、楽しい遊び場になっていることがうかがえる。

東京都下水道局では夏休みに合わせて都下 16 か所の水再生センターでサマーフェスタなどのイベントを開催しており、施設見学、微生物観察の他、スーパーボールすくい、ヨーヨー釣り、ドジョウつかみ、おもしろ工作、花の苗プレゼントなどの催し物を企画し、遊びに来ることを呼び掛けている。

(4)都市施設における博物館的機能の可能性と課題

都市施設が博物館的機能を発揮していくことの可能性は次のように整理できる。

第一に、地域の記録と記憶を継承し、地域の担い手の裾野を広げていく上での有効性である。都市施設が博物館的機能を発揮していく方向性は、都市施設のそれぞれが個別の役割や歴史文化資源を有することへの理解を促すだけでなく、それらの集合体としての地域が多種多様な価値ある資源によって構成されていることをさまざまな場や機会で伝えることを可能にする。そのような地域の記録と記憶を知ってもらうこと、感じてもらうことは地域への愛着を育むうえで不可欠であろう。高齢化・人口減少化社会において、インフラの老朽化をはじめさまざまな地域課題への対応が迫られる中で、地域の将来は担い手の如何次第である。次世代を含めた幅広い市民が地域環境を認識、保全継承し、地域の担い手としての育っていくことを期待したい。

第二に、施設によっては日常的に身近に繰り返し接することができることである。特に、地域の災害の記録や記憶を伝える防災教育、日常的な行動を促す環境教育などで大きな可能性を持つと考えられる。このうち、防災については、東日本大震災において想定されていた地震津波災害に対してハード、ソフト両面で相当な対策が講じられていたにもかかわらず、非常に多くの尊い人命が失われてしまった。想定外の規模の災害であったにしても、生存者の証言からは臨機応変の判断と行動が生死を分けたようなケースが少なくなかった様子がうかがわれる。あらゆる機会をとらえて災害の記憶と生き延びる知恵を継承し、一人ひとりが判断し行動できる防災力につなげていくために、都市施設がもっと活用されていいだろう。

第三に、都市施設の整備・維持管理にかかわる説明責任、市民との信頼関係構築に不可欠なコミュニケーションの観点からも意義があると考えられる。特に下水処理施設や廃棄物関係施設をはじめとする所謂迷惑施設

と捉えられがちな施設や、都市機能を維持する基盤的な施設でありながら目にすることが少ないが故にその役割に気が付きにくい施設、また施設整備の際の工事への理解を得ることにつながるものと思われる。近年さまざまな事業において説明責任や利害調整、クレーム対応等々を求められる場面が増えていることを考えると、予防措置としても有効ではないかと考えられる。

一方で、課題もある。現状では都市施設においてさまざまな博物館的取り組みがあることがわかったが、所謂縦割りのままバラバラに、また時として競合的に行われているように思われる。今後、これらの諸活動を地域資源の価値の認識、地域の記録や記憶の継承、地域に主体的に関与する担い手育成につなげていけるよう、都市施設における博物館的機能を充実させていくために、以下を提案したい。

第一に、都市全体を俯瞰し、博物館的な取り組みについて施設横断的に位置付けていくことが必要である。この意味で地域博物館の役割はもとより、エコミュージアム、フィールドミュージアム、まるごと博物館などの諸活動は意義が大きいし、回遊型の芸術祭におけるアーティストによる探求は市民の共感や気づきの喚起を促すと期待できる。

第二に、人材の問題である。博物館であれば基本的に学芸員が配置されているが、ほとんどの都市施設に学芸員はいない。例えば、全国にある水道記念館等 42 か所（(公社)日本水道協会のリストによる）のうち学芸員がいるのは 2 か所のみ、下水道科学館等 11 か所（(公社)日本下水道協会のリストによる）には学芸員がいる施設はなかった。市民の主体性を育む観点、また高齢化社会の中での生きがいや生涯学習の場の提供という観点からガイドボランティアなど市民参加で体制を組むことも大いにありうるわけだが、その場合でも、拠点としての博物館の役割、全体を俯瞰しつつ当該施設の機能を適正に位置付け具体化していくコーディネーターとしての役割を果たすことができる専門職としての学芸員の役割が不可欠であると考える。

参考文献

（財）公園緑地管理財団 2011『「博物館学」の知の導入と連携による公園の博物館的機能展開手法の開発に関する研究』平成 20 年度～平成22年度科学研究費補助金基盤研究C研究成果報告書
Lewis Mumford 1961, The City in History: Its origins, its transformations, and its prospects, Harcourt, Brace & World,（ルイス・マンフォード 1969『歴史の都市　明日の都市』生田勉訳、新潮社）
吉田伸之・伊藤毅編 2010『伝統都市３インフラ』東京大学出版会

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

① 堀江典子、都市施設における博物館的機能の可能性と課題、博物館学雑誌、査読無、第 41 巻、2016（掲載決定）
② 堀江典子、都市施設の博物館的機能における地域特性に関する一考察－展示施設を有する都市施設等の現状－、日本地域学会第 52 回年次大会学術発表論文集、査読無、2015、http://www.jsrsai.jp/index jap.html(B04-1.pdf)
③ 堀江典子、都市施設における博物館的機能の現状、全日本博物館学会第 41 回研究大会発表要旨集、査読無、2015、pp.41-42
④ 堀江典子、都市施設における博物館的機能に関する一考察、日本地域学会第 51 回年次大会学術発表論文集、査読無、2014、http://www.jsrsai.jp/index_jap.html(rC02-2.pdf)

〔学会発表〕（計 3 件）

① 堀江典子、都市施設の博物館的機能における地域特性に関する一考察－展示施設を有する都市施設等の現状－、日本地域学会、2015 年 10 月 10 日～12 日、岡山大学（岡山県岡山市）
② 堀江典子、都市施設における博物館的機能の現状、全日本博物館学会、2015 年 6 月 27 日～28 日、京都国立博物館（京都府京都市）
③ 堀江典子、都市施設における博物館的機能に関する一考察、日本地域学会、2014 年 10 月 3 日～5 日、麗澤大学（千葉県柏市）

６．研究組織
(1)研究代表者

堀江　典子（HORIE, Noriko）
佛教大学・社会学部・准教授
研究者番号：70455484